



つなぐ知 かなえる技

大阪電気通信大学高等学校

Osaka Electro-Communication University High School

所在地：大阪府守口市

生徒数：1182名

設置学科：普通科/工学科

国語科 保坂 亮 先生



現状・課題感

- 相手の立場や状況への配慮なく、自身の体験や経験、考え、思いなどを思いついたまま表現する生徒が散見される
→相手の理解力に依存したコミュニケーション（情報伝達）の常態化。
- 「他者に伝わるにはどのように表現したらよいか」を考える習慣と、文章でアウトプットできる力をつけさせたい
- その力は、進路実現に役立つことはもちろんのこと、進学・就職先など、社会で他者と協働して生きていくために必要な力だと捉えている
- 併設の大阪電気通信大学のアドミッションポリシーでも「基礎的・基本的な国語力」や「論理的思考力・表現力」、「コミュニケーション力」といった資質・能力が求められている

文章検導入のポイント

国語科全体で文章表現指導の均質化を実現

- 文章表現指導は、教員によって指導方法がさまざま、指導の質や効果を安定させることが難しい領域である
- その背景として、教員自身が段階的かつ体系化された文章表現指導を受けてこなかったことが考えられる
- 「何を書くか」は、生徒の知識や経験等によるものが大きいため、個別指導になってしまうが、「どのように書くか」は、スキルであるため、全体指導による育成が可能である
- 論理的な文章表現力育成に関する指導・学習ポイントが段階的かつ体系的にまとめられている『文章カステップ』を活用し、指導の拠り所(ガイド)にすることにより、国語科全体で文章表現指導の均質化が図れ、生徒の文章表現力を底上げできると考えた

導入形態

- 対象学年・受検級
1年生:4級、2年生:3級、3年生:準2級
(受検料を学年費で一括徴収し、全員受検)
- 受検時期
11月(3年生)、1月(1・2年生)
- 教材・検定
『文章カステップ』
「文章読解・作成能力検定」の過去問題
「文章読解・作成能力検定」
- 指導概要
1年生「現代の国語」[2単位]
2年生「国語総合」[4単位] (学校設定科目)
3年生「論理国語」[4単位]

それぞれ『文章カステップ』を帯活動(*)で扱いながら、検定前には教科書の単元と連動させ「通信文」・「意見文」を重点指導。

※授業冒頭に短い時間(10分程度)を行う学習活動

文章検導入の効果

指導の均質化により能力育成と動機づけを両立

- 『文章カステップ』を指導の拠り所(ガイド)にすることにより、国語科全体で文章表現指導の均質化が図れている
- 生徒にアウトプットを求める際、「事実→意見→理由」(授業で習得した「文章検」の型)の順で思考して、表現するよう指導・助言をすることによって、以前よりもスムーズに論理的な文章表現ができるようになっている
- 指導事項と評価事項が対応している「文章検」を活用することで、教員は指導成果の見える化が図れ、生徒は資格取得できるため、双方に充実感・達成感が生まれている(今後、「文章検」の各設問ごとの受検結果を「観点別評価」の補完的な材料として活用できないか検討中)
- 導入前に比べ、「漢検」の合格率も約10%上昇し、相乗効果が生まれている